

「6冊の歩行本」と「2本の映画」

長尾 和宏



宝塚ゴルフ倶楽部の会員と職員の皆様にはいつも大変お世話になり優しく接して頂き感謝申し上げます。私は年々ゴルフが下手になる一方ですが、その苦しい言い訳(?)をさせて頂きます。この10年ほどに約80冊の本を書き、この2年は映画化のお手伝いをしていたからです。今回、「6冊の歩行本」と「2本の映画」の紹介をさせて頂きます。

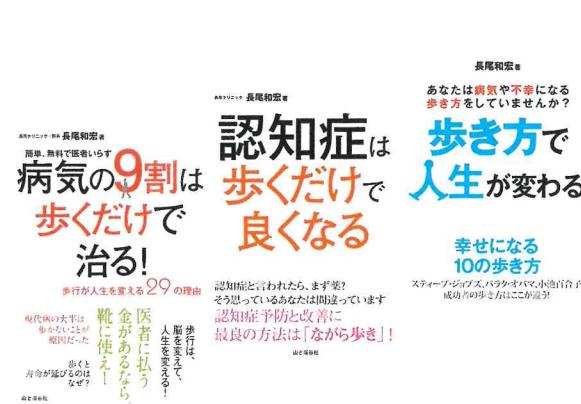
【6冊の歩行本】

①病気の9割は歩くだけで治る!、②認知症は歩くだけでよくなる、③歩き方で人生が変わる、④病気の9割は歩くだけで治る! PART2、⑤歩くだけでウイルス感染に勝てる!、⑥コロナ禍の9割は情報災害、と6冊の歩行本(すべて山と渓谷社)を書いてきました。

なぜ、歩行本を書くことになったのかは単純です。それまで死ぬ本ばかり書いて

いたのですが、ある人から「生きる本も書いたら?」と言われたからです。その瞬間に宝塚ゴルフ倶楽部のメンバーのお顔が浮かびました。お出会いする人がみなさん見事な「セロトニン顔(幸せ顔)」をされているからです。またインフルエンザなどの感染症にかかったという話を聞いたことがありません。しかし僕は年々、腹が出る一方で下手な歩き方しかできません。大変お恥ずかしい話ですが、自分に言い聞かせるつもりで執筆依頼を引き受けました。そして気が付いたら6冊もの「歩行本」を書いていました。

メンバーの方々にはまさに「釈迦に説法」なのですが、「コロナ怖い怖い病」でいまだに家に閉じこもっている結果、「フレイル」に陥っている方には是非、これらの歩行本をお勧めして頂ければ幸いです。



【2本の映画】

拙書「痛い在宅医」と「痛くない死に方」が原作となり、高橋伴明監督がメガホンを握って頂きました。映画「痛くない死に方」は在宅医療と尊厳死をテーマとした静かな映画です。主役の若い在宅医役は柄本佑で私の役を奥田瑛二、患者役を宇崎竜童でその妻が大谷直子で家族役が坂井真紀、訪問看護師役が余貴美子と実に豪華なキャストです。2019年夏に撮影され、この2月から全国ロードショーとなりました。阪神間でも3月中は約10の映画館で公開されています。

映画完成後に映画のオマケとして僕の日常を少し追いかけた記録映像もつけようという話が出て、毛利安孝監督が2ヶ月間ほど密

着しました。映画化に僕は大反対しましたが結局、ドキュメンタリー映画「けったいな町医者」として全国公開されるハメになってしまいました。阪神間でも3月中は上映されているはずです(自分は見たないです)。でも自分が関わった2本の映画が同時公開されることは夢のような光栄な話です。

今、全国の映画館の舞台挨拶に駆り出されているのでゴルフがますます下手になる一方で、実に複雑な気分です。ロードショーが一段落すればまたゴルフと歩行に精進しようと思っていますのでその時は、宜しくご指導のほどお願い申し上げます。

次回は、山本泰司さんにお願いします。



2本の映画の予告編
(約3分)



VOL.68 NO.781
2021年(令和3年)3月号

TAKARAZUKA

GOLFERS

